

令和3年度 4歳児 「玉入れ」

(令和3年度実践前修正箇所を斜体、
実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 9月～10月

2. 設定の理由

3歳時には、園庭の芝生で思い切り走ったり、固定遊具やゲームボックス、太鼓橋などを使ったりして体を動かす楽しさを感じてきた。また、転がしたり、投げたり、追いかけてたりしてボールの動きに合わせて体を使う遊びも経験してきている。また、教師や友達と一緒に遊具で遊んだり、追いかけてっこをしたりして、一緒に動かす楽しさも感じてきている。

4歳の1学期には、園庭で思い切り走ったり、固定遊具で遊んだり、大型積み木を並べたり、木登りをしたりして、様々な体を動かすことを楽しんできている。その中で、固定遊具の高いところに登りたい、木登りで上まで登りたい、など、少し難しいことに向けて、できるようになりたいと思い、繰り返し取り組む姿も見られるようになってきている。また、バナナ鬼などの鬼ごっこで、追いかけてたり追いかけられたりして友達や教師と一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、勝ち負けがあることで、勝って嬉しい気持ちや負けて悔しい気持ちを、友達と一緒に感じたりする経験をしてきている。

~~今年度は忍者に興味がある子が多く、好きな遊びの時に忍者の武器や防具を廃材を用いて作ったり、園庭で忍者修行として、木登りなどの運動遊びに取り組む姿がある。~~

3歳での経験と、4歳1学期での経験をもとに、できるようになりたい、上手になりたいと具体的な目的をもって、考えたり試したりして何度も取り組むなかで、できるようになったり、前よりも上手になったりしたことを嬉しいと思ったり、自信をもったりするように、玉入れを設定する。また、玉を入れられていない友達のことを思ったり、チームが勝てるようにどうしたらいいか考えたりして、思いついたことをしようとするように、玉入れのルールを設定する。

玉を入れたい、速く走りたいと思って繰り返し取り組む中で、自分の頑張りを感じられるように、頑張りを褒めたり、励ましたりしていききたい。また、同じチームの友達と玉を投げたり、走ったりする中で、友達と一緒に玉入れをする楽しさを感じられるように、応援し合ったり、一緒に喜んだりする子どもの気持ちに共感していききたい。その過程で、投げたり走ったりすることが得意な友達の個性やすごいところに気付けるように、その姿を知らせたり、互いがしているところを見合う時間を設けたりしていききたい。そして、勝ちたいという思いを大切に、勝てるようにどうすればいいか考えたりしようとするように、工夫して投げたり、速く走ったり、一生懸命友達を応援したりする子どもに目が向くような言葉を掛けたり、勝ったことを一緒に喜んだり、負けたことを悔しがったりしていききたい。カゴの中に入っている玉の数を見比べたり、勝敗を判断したりすることで、必然的に数量に関する学びも期待することができる。

3. わらい

- | | |
|--|------------------------|
| ① 玉を入れたい、たくさん入れたい、速く走りたい、速く片付けたい、勝ちたいという気持ちをもって、何度も玉を投げたり、走ったり、玉を拾い集めたりして取り組みようとする。 | 自ら決める・選ぶ |
| ② 玉を入れられた、チームが勝ったという楽しさを感じたり、 <u>前よりもたくさん入れられたこと、前よりもたくさん練習したことなどの自分の頑張りに満足したりする。</u> | 自分に満足する
自分を客観的に把握する |
| ③ 友達と一緒に玉を投げたり走ったり <u>拾い集めたり</u> することや友達と一緒に応援することを楽しんだり、友達 <u>や先生、年少児や年長児</u> に応援してもらうことを嬉しく思ったり、チームが勝てた楽しさや負けた悔しさを一緒に感じたりする。 | 他者という喜びを感じる |
| ④ 玉をたくさん入れられる友達、走ることが速い友達を見て友達のすごいところに気付いたり、たくさん練習している友達の頑張りを知ったりする。 | 他者のことを知る |
| ⑤ 玉が入らなくて困っている友達を気にかけて教えてあげようしたり、玉を拾って渡したり、座る場所を教えたり、応援したりする。 | 他者のことを考えて行動する |

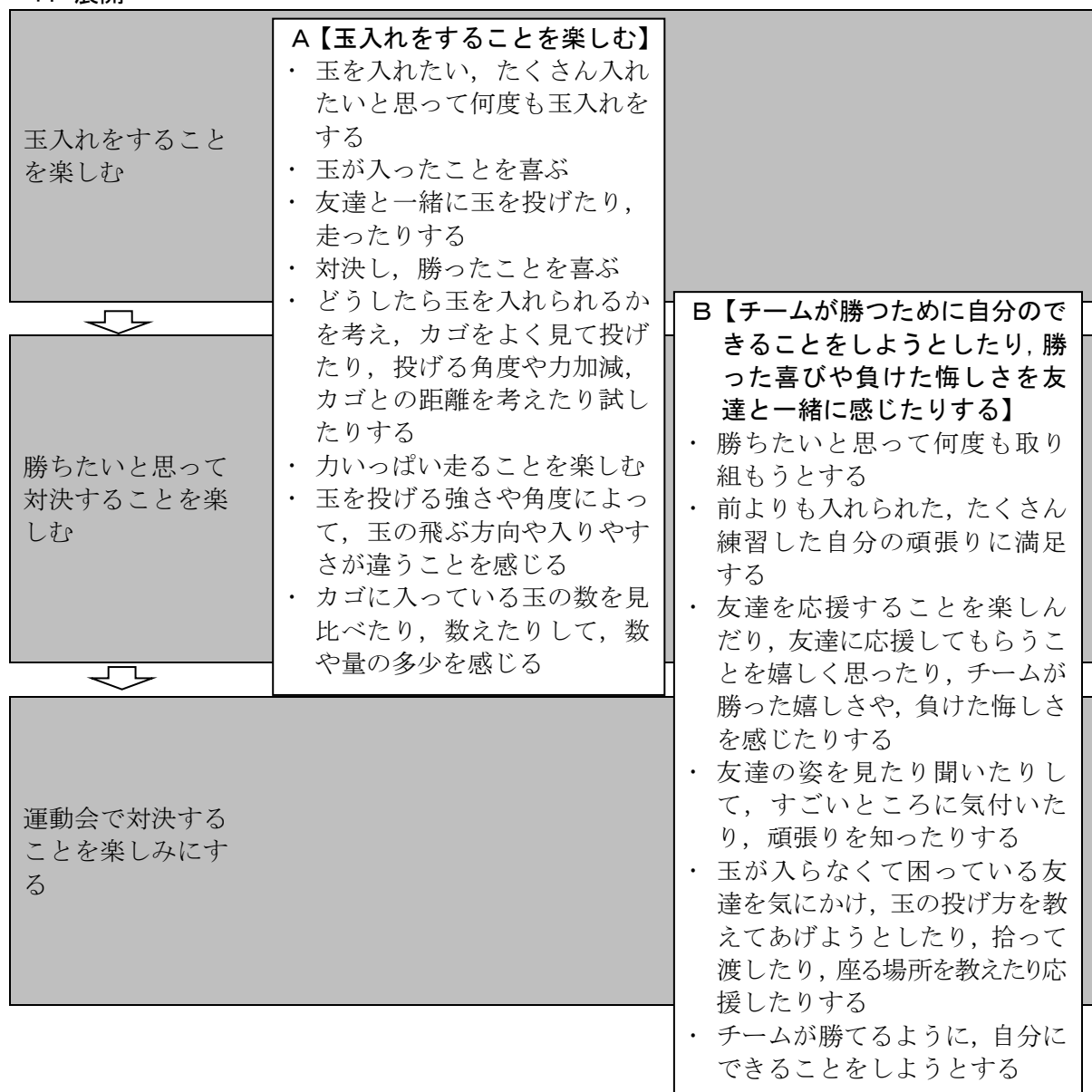
- ⑥ チームが勝てるように、合図が鳴ったらすぐに走り出したり、落ちた玉を素早く拾って友達に渡したりするなど考えたことを言ったり、友達の考えを聞いたりして、自分にできることをしようとする。
- ⑦ どうしたら玉が入るのかを考え、カゴをよく見て投げたり、投げる角度や力加減、カゴとの距離を考えたり試したりする。また、力いっぱい走ることを楽しむ。
- ⑧ 玉を投げる強さや角度によって、玉の飛ぶ方向や入りやすさが違うことを、何度も試して感じる。
- ⑨ カゴに入っている玉の数を見比べたり、数を数えたりして、数や量の多少を感じる。また、数の多少で勝ち負けの判断をする。

人と協力・共同する
問題を認識する
豊かに発想し、追及の手立てを構想する

身体を操作する
問題を認識する
豊かに発想し、追及の手立てを構想する
現象を科学的にとらえる

数・量を数理的にとらえる
比較する

4. 展開



A【玉入れをすることを楽しむ】

予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・ 玉を入れた	○ 玉を入りたい、たくさん入	◎ 繰り返し取り組むことを楽しめるように、たく

い、たくさん入れたいと思って何度も玉入れをする ・玉が入ったことを喜ぶ ・友達と一緒に玉を投げたり、走ったりする ・対決し、勝ったことを喜ぶ ・どうしたら玉を入れられるかを考え、カゴをよく見て投げたり、投げる角度や力加減、カゴとの距離を考えたり試したりする ・力いっぱい走ることを楽しむ ・玉を投げる強さや角度によって、玉の飛ぶ方向や入りやすさが違うことを感じる ・カゴに入っている玉の数を見比べたり、数えたりして、数や量の多少を感じる	れたい、速く片付けたいという気持ちをもって、何度も玉を投げたり、走ったり、玉を拾い集めたりして取り組もうとする① ○玉を入れられた嬉しさを感じる② ○友達と一緒に玉を投げたり、走ったりするを楽しむ。③ ○どうしたら玉が入るのかを考え、カゴをよく見て投げたり、投げる角度や力加減、カゴとの距離を考えたり試したりする。また、力いっぱい走ることを楽しむ。⑦ ○玉を投げる強さや角度によって、玉の飛ぶ方向や入りやすさが違うことを、何度も試して感じる。⑧ ○カゴに入っている玉の数を見比べたり、数を数えたりして、数や量の多少を感じる。また、数の多少で勝ち負けの判断をする。⑨	さん入れたい、勝ちたいなどの気持ちを盛り上げ、何度も玉を投げたり、走ったりする姿や頑張りを褒めたり、励ましたり、教師も一緒に玉入れをしたりする。 ◎玉が入れられた嬉しさを感じられるように、入った瞬間のタイミングで褒めたり、一緒に喜んだりする。 ◎友達と一緒にする楽しさを感じられるように、同じチームの友達と玉を投げたり走ったりする楽しさや嬉しさを言葉にしたり、一緒に喜んだりする。 ◎玉が入る投げ方を考えたり試したりできるように、なぜ入らなかったのか、どうしたら入るのかを尋ねたり、一緒に考えたり、互いが投げる姿を見合う場を設けたりする。そこで、友達の投げ方や速度、投げる角度、カゴとの距離を具体的な言葉で知らせたり、カゴとの距離が分かりやすいように目印をつけておいたりする。 ◎力いっぱい走りきる気持ちよさを感じられるように、教師も一緒に走って、楽しさを受け止めたり、走るために必要で満足できる距離を確保してコースを用意したりする。 ◎自分が投げる強さや角度によって、飛ぶ方向や入りやすさが違うことを感じられるように、教師も一緒にしてみte感じたことを具体的に言葉にしたり、気付いた気持ちを受け止めたり、繰り返し試す姿を見せたりする。 ◎遊びながら数や量の多少を感じられるように、数える前に比べて見たり、多少について尋ねたり、一緒に数えたりする。
---	--	---

B【チームが勝つために自分のできることをしようしたり、勝った喜びや負けた悔しさを友達と一緒に感じたりする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・勝ちたいと思って何度も取り組もうとする	○勝ちたいと思って、何度も取り組もうとする ①	◎勝ちたいと思って、何度も取り組もうとするように、勝ちたいと思う気持ちを励まし、何度も取り組む姿を褒めたり、一緒に取り組んだりする。

・ 前よりも入れられた、たくさん練習した自分の頑張りに満足する ・ 友達に応援してもらうことを嬉しく思ったり、チームが勝った嬉しさや、負けた悔しさを感じたりする ・ 友達の姿を見たり聞いたりして、すごいところに気付いたり、頑張りを知ったりする ・ 玉が入らなくて困っている友達を気にかけて、玉の投げ方を教えてあげようとしたり、拾って渡したり、応援したりする ・ チームが勝てるように、自分にできることをしようとする	○ 前よりも入れられた、たくさん練習した自分の頑張りを覚える② ○ 友達に応援してもらうことを嬉しく思ったり、チームが勝った嬉しさや、負けた悔しさを感じたりする③ ○ 玉をたくさん入れられる友達、走ることが速い友達を見て、友達のすごいところに気付いたり、たくさん練習している友達の頑張りを知ったりする。④ ○ 玉が入らなくて困っている友達を気にかけて教えてあげようとしたり、玉を拾って渡したり、一緒に練習したり、座る場所を教えたり応援したりする。⑤ ○ チームが勝てるように、合図が鳴ったらすぐに走り出す、落ちた玉を素早く拾って友達に渡す、玉が落ちている場所を教えるなど考えたことを言ったり、友達の考えを聞いたりして、自分にできることをしようとする。⑥	◎ 自分が頑張ったことに満足できるように、以前と比べて、玉をたくさん入れられた、たくさん練習したなど、一人一人の子どもが頑張っていることを具体的に褒める。また、自分で頑張ったと思っているところを聞いて受け止める。 ◎ 友達に応援してもらうことを嬉しく思ったり、クラスの友達と勝つ喜びや負けた悔しさを感じられるように、嬉しさを言葉にしたり、勝てた時には一緒に喜んだり、負けた時には悔しい気持ちに共感したり、励ましたりする。 ◎ 友達の頑張りの個性を知ることができるように、友達の頑張っている姿を知らせたり、互いがしている姿を見る時間や、気付いたことを話す場を設けたりする。また、気付いた気持ちを受け止める。 ◎ 友達のことを気にかけて、してあげたいと思うことができるように、なかなか玉が入らなくて困っている友達がいることや、チーム全員が玉を入れられたら勝てることを知らせたり、投げ方を教える、座る場所を教えている、応援する姿を褒めたり、友達の嬉しさを伝えたりする。 ◎ チームが勝つために自分にできることをしようとするように、合図が鳴ったらすぐに走り出す、落ちた玉を素早く友達に渡してあげるなど、自分が考えたことを話したり、友達の考えを聞いたりできる時間を設け、チームが勝つために何をしようか自分で考えて取り組む姿を褒めたり、他児に知らせたりする。
---	--	---